

8 市民アンケート結果から見るニーズや課題 (今後の取り組みの手がかりの一つとして活用)

●市民アンケート

時期：平成25年11月9日（土）

場所：明治大学黒川農場

回答：112名（有効回答数111）

設問：収穫祭の評価等、セレスモスの認知度と評価等、黒川地区環境の評価等、かわさきブランドの認知度と評価等、今後の期待等

性別構成：男性35.7%、女性63.4%

年齢構成：60代 40.2%、70代 25.9%

	項目	内容
ニーズや評価	地元農産物や食イベントへのニーズ	収穫祭の催しの評価や、セレスモスの利用理由等から、地場農産物に対するニーズは高かった。かわさきブランドへの興味も高かった。
	農体験や里山体験へのニーズ	里山体験は認知度は低いですが、内容によっては参加したい方を含め参加希望ニーズがあり、及び多種の今後の体験希望メニューの中で、農体験と里山体験が最も高い評価であった。
	黒川の環境や景観への評価	自然環境や風景のよさが高評価であった。
課題	散策路の評価	散策路への要望は、トイレ、マップ、休憩所、案内表示、駐車場等多岐に渡る要望があった。

- 12 -

9 農業者アンケート結果から見るニーズや課題 (今後の取り組みの手がかりの一つとして活用)

●農業者アンケート

時期：平成26年1月～2月

場所：黒川地区 回答：44名（有効回答数44）

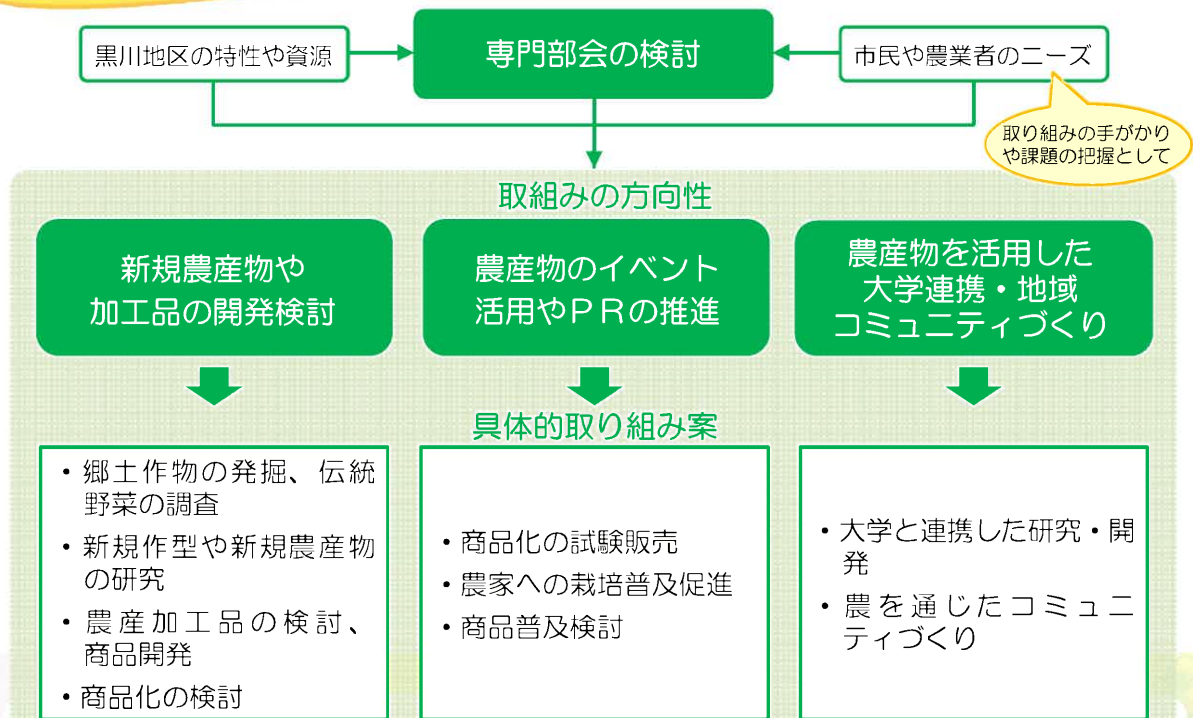
設問：体験型農園等の実施状況や興味、散策路整備について、今後の期待等

	項目	内容
ニーズや評価	大学との連携、地域のコミュニティづくりへのニーズ	今後の期待として、大学連携との興味に比較的高いニーズが伺え、大学との連携による地元農産物や黒川の景観と自然のPR等連携に対する期待も伺えた。
	地元農産物の商品開発へのニーズ	興味があるとの回答が約半数弱（無回答除く）を占め、一定のニーズが伺えた。
	農体験・里山体験へのニーズ	今後の期待として、農体験や里山体験の実施にも、比較的多く一定のニーズが伺えた。
	来訪者の増加へのニーズ	来訪者の増加を期待する方は、約半数の占め比較的多かった。
課題	マナーアップ等来訪者への対応	一方、自動車の地域内への流入が課題も約半数占めた。自由意見でごみやトイレの利用などマナーの改善が課題としてあげられた。

今後の対応：詳細なニーズや課題把握、取り組みへの理解・協力のため、農業者等に対し、更なるヒアリング調査を実施

- 13 -

10 農産物等研究専門部会（取り組み概要）



- 14 -

10 農産物等研究専門部会（今年度の試行的取り組み）

(1) 大学と連携した新規農産物や加工品の研究・開発

- ①郷土作物の発掘、伝統野菜の調査、新規作型や新規農産物の研究
 - ・ 農業者への提案に向け、農業者のニーズもふまえて、多くの農産物を試験栽培する。
- ◎主な試験栽培品（案）
 - ・ シカクマメ、岩ちゃん豆、のらぼう菜、ナノハナ、ハッショウマメ、カイグア、加工用トマト（湘南ポモロン）、ミニニンジン等
- ②農産加工品の検討、商品開発
 - ・ 農業者への提案に向け、大学生のアイデア参加も視野に入れつつ、多くの加工品を検討する。
- ◎主な加工品（案）
 - ・ シカクマメの味噌、アイス用のトマト、菜種油等
- ③商品化検討等
 - ・ 将来的に産業としてのブランド化を目指した場合は、市場の広がりや受け皿としての団体等も確認する必要があるため、別途検討する。

(2) 農産物や加工品の開発に向けた農業者へのヒアリング調査の実施

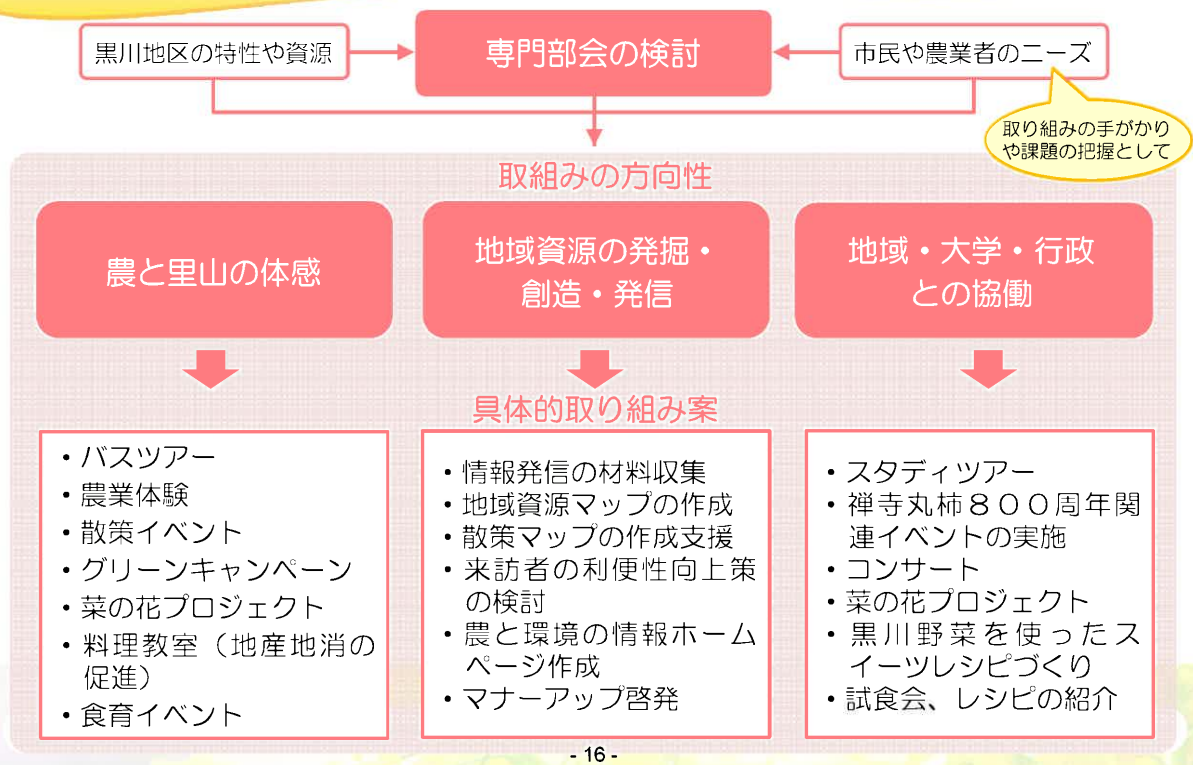
- ・ 取り組みの推進に向けたニーズや課題をヒアリング調査により把握する。

(3) 新規農作物や新規加工品等の農業者への提案の実施（提案会）

- ・ 地域の活性化に資する新規農産物や加工品について、農業者へ提案する。
- ・ 農業者に提案する際は、誰もが作れる技術マニュアルをセットで提案する。
- ・ 市民との関わり（市民への試食会）にも配慮し、農作物の種類を考えるきっかけづくりも検討する。

- 15 -

11 地域活性化検討専門部会（取り組み概要）



- 16 -

11 地域活性化検討専門部会（今年度の試行的取り組み）

(1) 農と里山の体感

①バスツアー

- ・麻生区民を対象とした農と里山が体感できるバスツアーの実施

②食育イベント

- ・親子参加を対象に、エコクッキングとダンボールコンポスト講習会
- ・明治大学黒川農場とグリーンツーリズム

③農業体験＋料理教室

- ・黒川の観光農園と連携して、収穫体験と収穫後の料理体験も行う、体験と食のイベントを行う。
- ・観光農園や野外活動センター等の協力により、試行的に実施し、今後の可能性を探る。

(2) 地域資源の発見・創造・育成

①散策マップ作成支援

- ・里地里山保全利活用専門部会連携し、マナー向上等にもつながる散策マップを作成する。

②農と環境の情報ホームページ作成

- ・麻生区のホームページ内に、農と環境のまちづくりHPを作成する。

(3) 地域・大学の協働

①禅寺丸柿800周年関連イベント

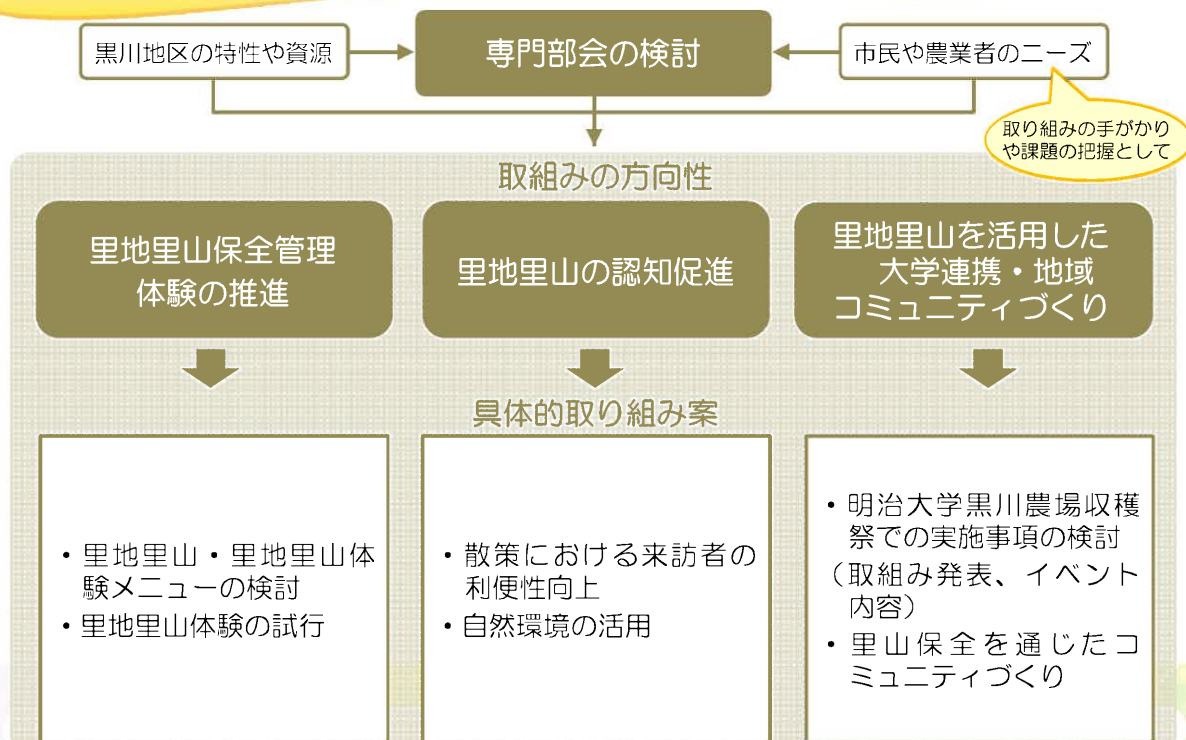
- ・柿の収穫時での大学生の協力や、明治大学の収穫祭と連携したイベントの開催

②スイーツレシピ作り・③試食会レシピの紹介

- ・大学生、農業者と連携して、地元野菜を使用したスイーツレシピを考案、試食会の実施。

- 17 -

12 里地里山保全利活用専門部会（取り組み概要）



- 18 -

12 里地里山保全利活用専門部会（今年度の試行的取り組み）

(1) 取り組みの前提として情報一元化

●黒川地域の様々な情報の抽出と地図上への一元化（見える化）

- 地域の魅力、地域の活動（市民団体活動、援農ボランティア、観光農園、体験農園等）、主な生産物、問題点（ごみ問題等）、地域の催し等を抽出し、地図上に情報を集約化し、今後の取り組みに向けて関係者の情報共有を図る。
- 専門部会での集約化とともに、農業者等のヒアリングもふまえた情報の集約化を図る。

(2) 里地里山の認知促進、保管理体験、大学連携の一体的取り組み

◎「体験型散策イベント」の実施

- 黒川の里地里山情報図より、散策イベントへの情報の抽出。
- 散策イベントを、明治大学と連携し実施。
- 散策は、里山体験や地域の魅力発信のみでなく、マナーや環境の向上に関わる取り組み（美化清掃イベント等）もいれるなど、地域の課題への対応も考慮する。
- 里地里山の認知促進として普段利用可能な散策マップへの情報抽出。
- 市民の散策の促進にあたっては、来訪者増加に伴う問題の解決も想定し、コースの絞り込みや、マナー啓発（良心に訴えかけるマナー啓発、地域の小学生の絵や文字を使ったマナー啓発等）を、その方法も工夫しつつ取り組んでいく。
- 実際の里山の保管理に関する情報のパネル展示もイベントや明治大学にて実施。

- 19 -

13 基本計画の作成に向けて

今年度（平成26年度）、3部会それぞれにおいて、実際に試行的に取り組みを実施しつつ、関係者間での具体的な方向性や課題の共通理解を深めつつ、基本計画を作成していくにあたり、現状での「黒川地区 農と環境のまちづくり基本計画（たたき台）」の考え方は以下のように設定する。



基本目標：地域で守り育てる身近な農と環境

- ◎基本方向
- ①地産地消の推進により地域を活性化する。
 - ②農と里山を体感し、地域資源を発見・創造・育成する。
 - ③地域・大学・区民・行政が協働する。
- ◎実施方針
- ①地元農産物の販売促進と加工品の開発
 - ②農や里地里山を体感するイベント実施
 - ③農や里地里山の魅力を伝える情報発信 など

14 各部会の今年度の取り組み一覧と連携

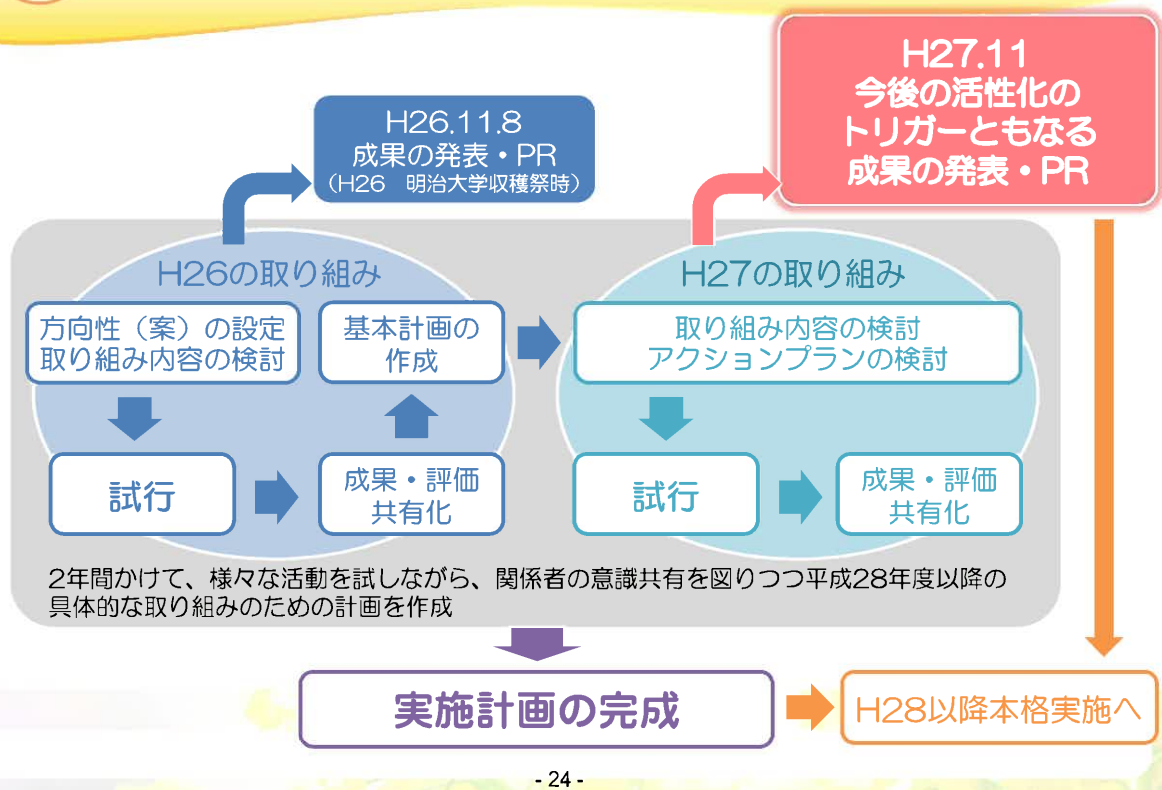
	取り組みの方向性	今年度の取り組み	農産物等研究専門部会	地域活性化検討専門部会	里地里山保全活用専門部会	大学	農業者
農産物等研究専門部会	①新規農産物や加工品の開発検討	新規農産物栽培や加工品開発等を試行的実施	◎			◎	
		農産加工品の検討、商品開発	◎			◎	
		商品化検討等	◎			◎	
	②農産物のイベント活用やPRの推進	マニュアル作成配布、種苗配布等	◎			◎	
		試食会の実施等	◎			◎	○
③大学連携・地域コミュニティづくり	大学と連携した商品開発 提案会の実施	◎ ◎			◎ ◎	○ ○	
地域活性化検討専門部会	①農と里山の体感	バスツアー		◎		○	
		食育イベント・グリーンツーリズム		◎		◎	
		農業体験＋料理教室		◎			○
	②地域資源の発掘・創造・発信	地域情報マップの作成支援			○	◎	
		農と環境の情報ホームページ作成	○		◎		○
	③地域・大学・行政との協働	禅寺丸柿800周年関連イベントの実施			◎		◎
黒川野菜を使ったスイーツレシピづくり				◎		◎	
スイーツ試食会、レシピの紹介				◎		◎	
里地里山保全活用専門部会	①里地里山の認知促進	黒川地区の散策マップの作成		○	◎		
		体験型散策イベントの開催		○	◎	○	○
	③里地里山を活用した大学連携・地域コミュニティづくり	現状及び保全管理活動の取組み状況の調査と発表			◎		○
3部会共通	地域の方々と連携した取り組みの推進	農業者等へのヒアリング調査	◎	◎	◎		
	地域情報の共有化	地域情報マップの作成 地域情報見える化	◎	◎	◎		
	地域課題への対応	地域課題（マナーアップ等）の解決に配慮した取り組みの推進	◎	◎	◎		
	市民の意向の把握	収穫祭でのアンケート	◎	◎	◎		

15 今年度のスケジュール（詳細）

時期	黒川連携協議会 〈3部会共通事項〉	農産物等研究専門部会	地域活性化検討専門部会	里地里山利活用専門部会
5月		第1回 専門部会（26日） ・ 基本的事項の共有、取り組みの方向性及び今年度の試行作業内容等の検討	第1回 専門部会（30日） ・ 基本的事項の共有、取り組みの方向性及び今年度の試行作業内容等の検討	第1回 専門部会（26日） ・ 基本的事項の共有、取り組みの方向性及び今年度の試行作業内容等の検討
6月	・ 農業者等へのヒアリング調査 第2回 協議会(30日)	・ 郷土作物の発掘、伝統野菜の調査 ・ 新規作型や新規農産物の研究		
7月	・ 農業者等へのヒアリング調査	・ 栽培マニュアルの作成	・ バスツアー ・ 食育イベント	
8月	・ 黒川情報マップの完成（協議会内部用）	・ 郷土作物（岩ちゃん豆等）の定植	・ HPの立ち上げ	・ イベント散策マップの完成
9月		第2回 専門部会 ・ 郷土作物や新規作型、新規農産物の検討状況の確認、収穫祭での発表検討 ・ 収穫祭でのPR事項の検討 ・ 新規農産物の農業者への提案会の実施	第2回 専門部会 ・ 収穫祭でのイベント内容等の検討・確認 ・ 他部会と連携したイベントの調整	第2回 専門部会 ・ 体験型散策イベントの実施計画の検討・確認 ・ イベント散策マップの確認 ・ 成果発表内容等の検討
10月	第3回 協議会		・ バスツアー	
11月	明治大学収穫祭(8日)	・ 農業者への提案会の実施 ・ 市民向け試食会の実施	・ 禅寺丸柿800周年イベント ・ スイーツ試食会	・ 体験型散策イベント ・ 地域活動等の発表
12月		ワーキングとりまとめ	ワーキングとりまとめ	ワーキングとりまとめ
3月	報告会の実施			

【平成27年度の連携成果PRに向けて】
～2年間の試行の総括と今後の活動の起爆剤として～

16 平成26・27年度の取り組み成果発表に向けて



- 24 -

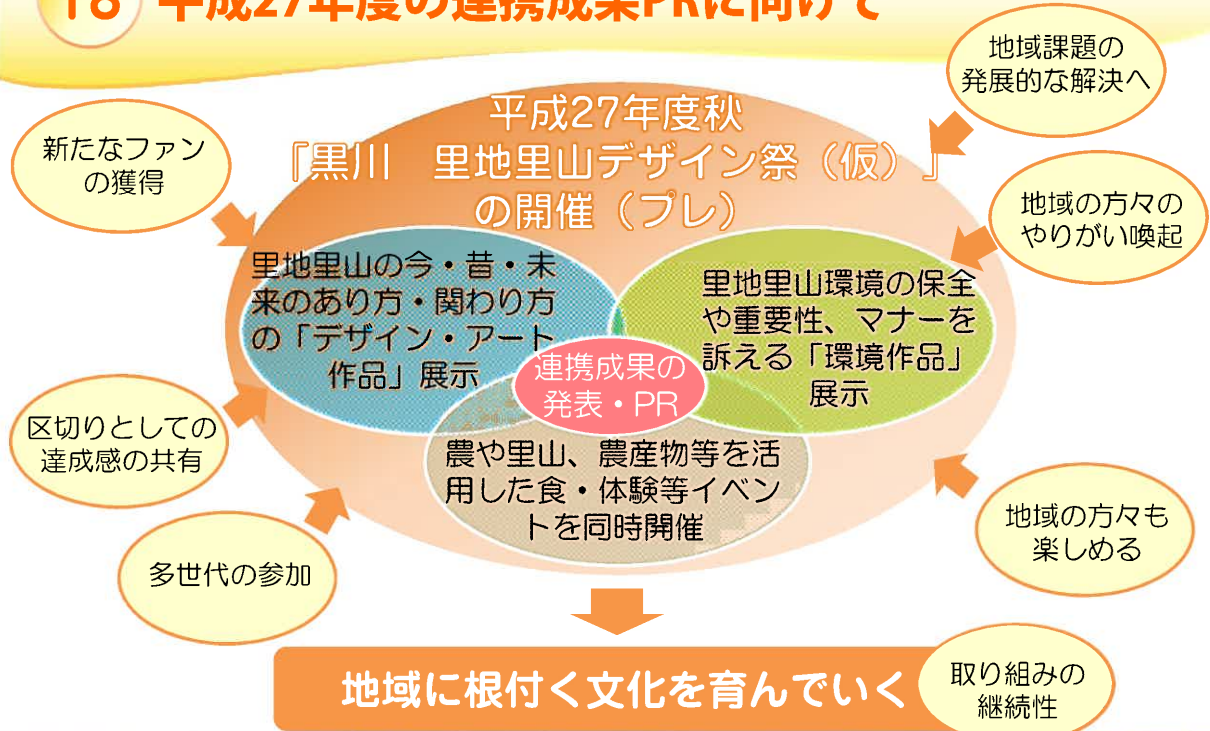
17 現状の試行的取り組みの課題

課題	対応の視点	対応の方向性
各部会での情報発信・PRでは、 情報発信力がやや弱い 。 試行的取り組みに対する 体感・実感できる到達点がやや希薄 。	達成感の共有化	関係者や地域が一体となって発信でき、2年間の試行の目標や達成感が持てる区切りとなるイベントの実施。
農と緑を主体とした取り組みでは、 興味対象が限定される 。	興味対象の拡充	黒川の自然環境を舞台に、農と緑以外の手段により、新たなファンを獲得する。
生活に密着した活性化の取り組みが主体で、 農業者間での温度差が懸念される 。	地域住民のやりがい	農業者等地元の方々も楽しめ、やりがい、新たな発見を喚起する取り組みの実施。
一部、親子等参加はあるが総じて高齢者層等、 参加者の年齢層の偏り が懸念される。	多世代参加	次世代を担い、情報発信力のある若者を中心に多世代が関心を持てる取り組み。
単発的な取り組みでは 継続性や連続性を持たせることが難しい 。	継続性	黒川の、麻生区の、川崎市の文化として根付いていく取り組みの実施。

現状の取組み課題の包括的解決を図る平成27年度のイベント実施

- 25 -

18 平成27年度の連携成果PRに向けて



- ・この取り組みも1つの試行であるため、収穫祭前後2週間等期間限定のイベントとする。
- ・27年度は試行として実施しつつ、3年に1度開催する地域の文化イベントへ定着をねらう。

- 26 -

19 他地区の活性化事例

越後妻有 大地の芸術祭の里 ECHIGO-TSUMARI ART FIELD

新潟県越後妻有地域（十日町市、津南町）で開催される世界最大規模の国際芸術祭。都心からの学生ボランティアスタッフが運営を補佐することで、継承者の獲得にもつながっている。

正式名称 大地の芸術祭 越後妻有アートフィールド
 開催時期 3年に一度
 初回開催 2000年
 会場 新潟県十日町市・津南町
 主催 大地の芸術祭実行委員会
 協賛 ハネッセコーポレーション
 運営 大地の芸術祭実行委員会
 ハネッセコーポレーション
 ボランティアスタッフ「こへび隊」（都心学生）
 来場者数 30万人以上（約3ヶ月）



→農や里地の活性化につながっている例。
 （有名アーティストの誘致や維持管理等コスト大）



仙台にて開催されるデザイン祭。街に関するテーマを掲げ、学生、アーティスト、建築家から作品を募集しイベント期間中展示。「再生」「産業」「教育」を推進。

正式名称 デザインウィーク イン センダイ
 開催時期 毎年
 初回開催 2003年
 会場 仙台市
 主催 デザインウィーク in せんだい実行委員会
 協賛 地元企業
 運営 デザインウィーク in せんだい実行委員会
 来場者数 30万人以上（6日間）



→地元を巻き込みながら、多くの若者が参加例。

- 27 -

20 H27「農と緑を活用したイベント企画」実施概要

黒川地域の農と緑を活用した合同イベント
『SATOYAMA DESIGN WALK(仮案)』
里地里山デザインウォーク

目的
黒川地域の里地里山をステージに、里地里山のあり方を考える機会とすることで、現在の黒川における環境を知り、地元住民だけでなく来訪者と課題を共有することで“自分事”にし興味者の拡大、ファンを獲得するものとする。「交流人口の増加」「地域の情報発信」「地域の活性化」を主要目的とした地域住民と興味者のマッチングプロジェクト。

内容
「里山は人が自然を創造する最前線*」を理念に、黒川エリアを里地里山のあり方を考えるキャンパスと見立て、若者と地域住民とが共創し地域に根ざした作品(もの、こと、食)を制作、継続的な地域展望を拓く活動を目的とするデザイン祭。
※里山=自然と人里に隣接した、人の手や影響を受けた生態系や環境

地域住民・制作者・来場者ともに里山を考え、創造するイベント

制作者・地域住民 里山(黒川的环境)をテーマに 作品(もの、こと、食)を共創	↔	来場者(興味者) 作品に触れ・体験し 里山の昔・今・未来を歩いて知る
--	---	--



デザイン作品展示



農家と共創



来場者参加型(食・工作等)



ボランティア団体の設立

- 28 -

21 H27「農と緑を活用したイベント企画」の方向性

本イベントにおいて、
「環境デザイン」「農産物デザイン」「ライフスタイルデザイン」
を行うことで、興味者から共感へ、そしてファンの獲得を視野に展開。



- 29 -

22 H27 「農と緑を活用したイベント企画」の開催期間案

明治大学の収穫祭をイベントのオープニングに、2週間の展示・体験イベント等を開催。
2週間後の「JAセレサ農業まつり」でフィナーレを迎える。

11月初旬

明治大学
収穫祭

オープニング

黒川 里地里山デザイン祭

2つのイベントをつなぎ手として

セレサモスと連携

地域活性化、農産物の販売促進へ

11月中旬

JAセレサ農業まつり

フィナーレ